

『平成27年度ふるさとやまぐち生活体験活動推進事業』活動報告書

【ふるさとやまぐち生活体験活動】

小規模校における2校合同の民泊体験活動 宇部市万倉小学校・宇部市立吉部小学校（共同実施）

学校の概要

◎ 宇部市立万倉小学校

① 学校規模

- 学級数：4学級
- 児童数：37人 ○ 教職員数：8人
- 活動の対象学年：3、4年生・11人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 保護者や地域は、学校に対して協力的である。少人数のため、せまい人間関係の中で過ごしており、大人も含めて他者との交流の充実が望まれる。

③ 連絡先

- 〒757-0214
宇部市大字西万倉1761-1
- 電話：0836-67-0206
- FAX：0836-67-0946
- 電子メール mge@ube-ygc.ed.jp

◎ 宇部市立吉部小学校

① 学校規模

- 学級数：4学級(内特別支援学級1学級)
- 児童数：25人 ○ 教職員数：8人
- 活動の対象学年：3、4年生9人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 限られた人間関係の中で過ごしており、大人も含めて他者との交流の充実が望まれる。
- 自然豊かな環境であるが、児童の自然体験は少なく、多様な体験活動が求められる。

③ 連絡先

- 〒757-0401
宇部市大字東吉部3425-1
- 電話：0836-68-0101
- FAX：0836-68-0104
- 電子メール kbe@ube-ygc.ed.jp

体験活動の概要

① 活動のねらい

- 民泊体験活動、自然体験活動、様々な年齢や立場の人との交流体験活動等を実施し、豊かな心を培う。
- 山間部に住む児童達に、漁村での体験をさせることにより、視野を広げ、今までと違ったものの見方や考え方を身に付ける。
- 中学校で一緒になる他校の児童と交流し、お互いの友情を深めることで、中学校進学への期待をもつ。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 事前指導・・・計画立案(目標、活動計画)
総合的な学習の時間2単位時間
学級活動2単位時間
- 民泊体験活動
学校行事10単位時間
※長門市通地区
通鯨・ツーリズム推進協議会選定の民家
4家庭で1泊
- 事後指導・・・振り返りとまとめ
総合的な学習の時間2単位時間
国語科2単位時間

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ① 民泊体験活動、自然体験活動、様々な年齢や立場の人との交流体験活動等を実施し、児童に豊かな心を培う。
- ② 山間部に住む児童達に、漁村での体験をさせることにより、視野を広げ、今までと違ったものの見方や考え方を身に付けさせる。
- ③ 中学校で一緒になる他校の児童と交流し、お互いの友情を深めることで、中学校進学への期待を抱かせる。

(2) 全体の指導計画

活動時期・期間	体験活動の概要	教育課程上の位置づけ
6月～7月	【事前学習】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 民泊体験学習の概要・目的 ○ 活動計画立案 ○ 民泊体験学習のきまり ○ 通についての調べ学習 ○ マナーについての学習 ○ 班編成 	総合的な学習の時間 2 単位時間 学級活動 2 単位時間
7月8日～9日	【民泊体験学習】 <ul style="list-style-type: none"> ○ はじめの式 ○ 漁船への乗船体験 ○ 地引網体験 ○ 2校の交流、昼食 ○ クジラ文化体験 <ul style="list-style-type: none"> ・くじら資料館見学 ・まち歩き ○ 民泊家庭との対面式 ○ 波止場釣り体験 ○ 昼食準備、昼食、後片付け ○ 民泊家庭とのお別れ式 ○ おわりの式 	学校行事 10 単位時間
7月	【事後学習】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 民泊体験学習の振り返り ○ 体験の発表、交流 ○ 民泊家庭への礼状作成 	総合的な学習の時間 2 単位時間 国語科 2 単位時間

2 活動の実際

(1) 事前指導

① 民泊体験のきまりを作成

しおりを作成し、民泊体験活動の概要を把握させた。その上で、安全に楽しい体験活動にするためにはどんなきまりを守ればよいか考えさせた。

② 班編成を決定

民泊での班は、受入家庭の状況と可能人数を考えて教師の方で決定した。2校の同学年の児童がなるべく交流できるように配慮した。

③ マナーについての学習

今回は、宿泊施設ではなく、一般家庭がご好意で宿泊させてくださるということを知った上でとるべき態度や言葉づかいについて考えさせた。

(2) 活動の展開

7月8日(水)・・・1日目	7月9日(木)・・・2日目
8:30 万倉小発	8:00 朝食(民泊先で)
8:40 吉部小発	9:30 波止場釣り体験
9:50 通到着	11:10 昼食準備手伝い
10:00 入村式	12:00 昼食、民泊家庭とのお別れ式
10:10 地引網体験	13:20 退村式
12:00 2校の交流、昼食	13:40 通出発
13:00 クジラ文化体験	14:50 吉部小着
15:30 民泊先との対面式	14:00 万倉小着
15:40 民泊先へ	



力を合わせて地引網を引く



とれた魚たち



まち歩き



船で移動



釣ったアジのからあげ

(3) 事後指導

① 振り返りと発表

民泊体験活動で楽しかったことや、自分のためになったことを振り返り、友達と互いに気付きを発表し合うことで、自分の成長を意識化させた。

② 礼状の作成

民泊受入家庭にお礼の手紙を書かせることで、お世話になった方々への感謝の気持ちを表現させた。

3 体験活動の実施体制

(1) 学校や受入地域の支援体制

① 学校の体制

管理職 2 名（万倉小校長、吉部小は校長と教頭が 1 日ずつ交代）

教諭 2 名（万倉小、吉部小）、養護教諭 1 名（万倉小と吉部小で 1 日ずつ交代）

② 受入地域の体制

通鯨・ツーリズム推進協議会及び通公民館の全面協力。

(2) 配慮事項等

① 保護者への事前説明

昨年度 2 月に、該当学年保護者に対して民泊体験活動の趣旨説明を行った。今年度に入り、PTA 総会において全保護者に対して趣旨説明を行うとともに、学校便り等で周知した。6 月には詳細が分かるプリントを配付するとともに、日程等を該当学年の保護者に説明した。

② 受入先との事前打合せ

昨年度 3 月と今年度 6 月の 2 回、直接通公民館に出向いて、事前打ち合わせを行った。その他電話やファックスを使って綿密な打ち合わせを行った。

③ 児童の健康管理

保健調査票を作成し、保護者に記入してもらった。調査票に事前に目を通すとともに、民泊受入家庭に送付し、児童の健康上気になる点を把握してもらった。2 校の養護教諭を 1 日ずつ交代でつかせて、体調管理に万全を期した。釣り針が刺さる等の軽い怪我はあったものの、2 日間、大きな怪我をしたり、体調を崩したりする児童もなく、元気に過ごした。

④ 安全管理体制

救急病院等については、事前に確認し、民泊先で何かあった時の緊急連絡体制もしっかり確認した。夜は、両校の管理職が近くの民宿に宿泊して待機した。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

(1) 体験活動の評価の工夫

児童に対して、事前事後にアンケート調査を行い、変容を見られるようにした。また、児童の発表や、作文、手紙等の内容から変容を見取るようにした。

(2) 指導の改善

児童が体験活動を通してできるようになったことや、初めて挑戦したことを把握し、機会をとらえて振り返らせることで、自己肯定感を大切にしながら指導している。

5 活動の成果と課題

(1) 成果

① アンケート結果から

児童に対し、事前と事後のアンケートを実施した。アンケートは全部で13項目あり、「全くあてはまらない」・・1 から「とてもよくあてはまる」・・6 まで、6段階で回答する。その中で、変化が顕著だったものについては以下のとおりである。

○ 初めての生き物にさわれる・・・6と回答した児童 8人→14人

山に囲まれて育った子ども達なので、釣りの経験も少なく、生きた魚にさわったことのない児童が多かったと思われる。今回、地引き網体験と釣り体験があったので、そこで生きた魚をさわることになった。特に、釣りでは、釣れた魚を針からはずさなければならず、大騒ぎしていたが、徐々に慣れてきたようである。

「本物の蛸をさわれるようになりました。」

「釣りをしたことがなかったけど、初めて釣れました。初めて大きな魚をさわれました。」

「生きた魚はさわれなかったけど、体験のおかげでさわれるようになりました。」

「ちょっとだけ時間をかけて魚をさわったので、またやる時は、もう慣れたのですぐにさわりたいと思います。」

○ 初めて会った大人の人と話ができる・・・6と回答した児童 6人→13人

これは、民泊家庭でのふれあいが大きかったと思われる。児童の話や作文等からも夕食が美味しかったことや、団らんが楽しかったことが伺えた。

「お父さん、お母さんがいない中で初めて泊まりました。」

「家族の雰囲気は自分の家と似ていたもので、すぐに溶け込めました。」

○ 自分から進んで何でもやる・・・6と回答した児童 6人→12人

よその家庭に泊めていただくという、日頃あまり経験しない環境の中で、遠慮したり、緊張したりしながら、自分の行動を考えた児童も多かったようである。

「泊まっている家で、自分から進んで手伝いをできたので、うれしかったです。」

○ 相手の気持ちを考えて行動することができる・・・6と答えた児童 8人→12人

吉部小・万倉小合同で開催したことで、お互いに友達になろうと努力したようである。普段はせまい人間関係の中で生活しており、同じ中学校に進学する同級生同士が、友達になれたことは意味のあることだったと思う。

「初めて会った人や生き物と関わって、意外と緊張しないとわかりました。初めて自分から友達を作ることができて、自分に自信ができました。」

「最初は、万倉の人と仲良くなれなかったけど、最後はとても仲良くできたので、良かったです。次は万倉の男子にも声をかけて仲良くなりたいです。」

○ 地域の伝統や文化を守っていないといけないと思う・・・6と答えた児童 全員

「その地域にしかない行事を体験することができるのはいいことだと思います。」

「山に囲まれて暮らしているけど、海が前よりもっと好きになりました。」

② 児童の声や作文から

児童が、初めて挑戦したり、できるようになってうれしかったことも多かったようである。そういう経験を通して、自己肯定感が育まれていくものだと思う。また、経験によって新たな認識をもった児童もいたので、それらの内容を紹介する。

- ・たくさんできることが増えました。
- ・いかのお刺身を食べられなかったけど、食べられるようになりました。
- ・初めて食べるものも、思い切って食べてみるとおいしかったです。
- ・今までは魚がさわれなかったけど、さわることができるようになりました。
- ・自然を大切にしなければいけないと感じました。
- ・今までは、にぎやかな町に住んでみたいと思っていたけれど、民泊で、自然に関わるたくさんの経験をして、田舎に住むのも面白いと思うようになりました。

③ お礼の手紙から

毎日、むしむしした日が続いていますが、お元気ですか。私は七月八・九日の二日間、お世話になった万倉小四年〇〇です。

私が一番心に残ったのは、ごはんです。一日目のばんごはんは二日目の朝ごはんが、おいしくておいしくて万倉に帰ってばんごはんを食べたくないほどでした。父、母、兄とはなれて泊まったのは初めてだったけど、私の家族とふんいきが似ていたので、すぐになりました。□□さんは、おもしろくて、□□さん一家のおかげで、吉部小学校の人たちと万倉小学校の友達、□□さんの子どもさんのかちゃん、ゆうちゃん、そして私が八人姉妹のような関係になれたのが、一番うれしかったです。

今回の体験で、もっともつと魚を好きになることができました。これからもお体に気をつけてください。二日間ありがとうございました。

毎日、むし暑い日が続いていますが、お元気ですか。七月八日、九日の民泊でお世話になった万倉小四年の〇〇です。

□□さんの家に泊まることができ、とても楽しかったです。ご飯を作る時、初めて知った料理もありました。例えばいかめしです。朝食も、いろいろなおいしい物を食べることができてうれしかったです。

また、□□さんの家に泊まりに行きたいです。その時は、もっとお手伝いをしたいです。いかも食べられるようになりたいです。お体に気をつけてお元気でいてください。楽しい二日間でした。

日頃から偏食で、せっかく出されたいかめしを食べられなかったことを後悔している。

自分には、男兄弟しかいないので、民泊先の子どもさんも含めて8人で姉妹のように過ごしたことの喜びを表している。

(2) 課題

児童にとって大変有意義な体験活動であるので、来年度も継続して行えるよう計画している。そのためには、複式学級では3年生が2年続けて行くことになることを考慮して、活動内容が平成27年度と同じものにならないよう、カリキュラム作成において工夫をする必要がある。